



3:9 善悪を判断してあなたの民をさばくために、聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、この大勢のあなたの民をさばくことができるでしょうか。」

3:10 これは主のみどころにかなった。ソロモンがこのことを願ったからである。

3:11 神は彼に仰せられた。「あなたがこのことを願い、自分のために長寿を願わず、自分のために富を願わず、あなたの敵のいのちさえ願わず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を願ったので、3:12 見よ、わたしはあなたが言ったとおりにする。見よ、わたしはあなたに、知恵と判断の心を与えよう。あなたより前に、あなたのような者はなく、あなたの後に、あなたのような者は起こらない。

3:13 そのうえ、あなたが願わなかったもの、富と誉れもあなたに与える。あなたが生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者は一人もない。

3:14 また、あなたの父ダビデが歩んだように、あなたもわたしの掟と命令を守ってわたしの道に歩むなら、あなたの日々を長くしよう。」

3:15 ソロモンが目覚めると、見よ、それは夢であった。彼はエルサレムに行き、主の契約の箱の前に立って、全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを献げ、すべての家来たちのために祝宴を開いた。

ソロモンは自分の能力が、その使命にはまだ足りないことを覚え、謙遜に知恵を求めました。使命のために謙遜になりましょう。何よりもその使命を全うできる、賜物を求めましょう。ものや恵

よりも、いかに主の役割を果たすことが大切です。ソロモンは自分の祝福よりも、主の働きを最優先して、その結果祝福を得たのです。「高きとただだし、これほどのソロモンでも「高きとこころ」で、異教のように香をたいています。賜物これが不信仰の要因にもなっています。賜物があるからといって、それで安心できるのではなく、主のみどころに叶うことが大切です。

①神のみどころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:1 ソロモンはエジプトの王ファラオと姻戚の関係を結んだ。彼はファラオの娘をめぐり、ダビデの町に連れて来て、自分の家と【主】の家、およびエルサレムの周りの城壁を築き終えるまで、そこにとどまらせた。

3:2 当時はまだ、【主】の御名のために家が建てられていなかったもので、民はただ、高き所でいけにえを献げていた。

3:3 ソロモンは【主】を愛し、父ダビデの掟に歩んでいた。ただし、彼は高き所でいけにえを献げ、香をたいていた。

3:4 王はいけにえを献げようとギブオンへ行った。そこが最も重要な高き所だったからである。ソロモンはこの祭壇の上で千匹の全焼のささげ物を献げた。

3:5 ギブオンで【主】は夜の夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」

3:6 ソロモンは言った。「あなたは、あなたをしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。父があなたに対し真実と正義と真心をもって、あなたの御前に歩んだからです。あなたはこの大いなる恵みを父のために保ち、今日のように、その王座に着いている子を彼にお与えになりました。

3:7 わが神、【主】よ。今あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし私は小さな子どもで、出入りする術を知りません。

3:8 そのうえ、しもべは、あなたが選んだあなたの民の中にいます。あまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど大勢の民です。